

第2回鶴岡市介護保険事業計画等策定懇話会 会議録

- 日 時 令和2年12月22日(火) 午後1時30分～午後2時45分
- 会 場 鶴岡市勤労者会館 大ホール
- 審議事項 (1)第8期介護保険事業計画の施策体系(案)について
(2)地域支援事業の見直し(案)について
(3)第8期介護保険事業計画等の給付見込みと保険料(案)について
- 出席委員(敬称略)
小林達夫、齋藤邦夫、渋谷広之、福原晶子、清野肇、成田英俊、吉野進、佐藤豊継、菅原斉、岩浪武司、鎌田剛、皆川芳昭、深澤一雄、長澤祐子、伊藤貫正、丸山洋子、中嶋悦、三浦瞬、秋庭知典
- 欠席委員(敬称略)
篠田太朗、井上純子、五十嵐一美
- オブザーバー(敬称略)
佐藤規子(地域包括支援センター)
- 市側出席職員(事務局)
健康福祉部長 渡邊健、長寿介護課長 天然せつ、長寿介護課長補佐 加藤早苗、長寿介護課主査 長谷川洋子、五十嵐信子、石井美喜、同課高齢者支援専門員 上林一志、佐藤文子、同課主事 工藤徳将、高橋宏知、地域包括ケア推進室長 佐藤清一、同室調整専門員 佐藤正、帯谷友洋
藤島庁舎市民福祉課長 長谷川郁子、羽黒庁舎市民福祉課長 佐藤美香、楡引庁舎市民福祉課長 前田郷子、朝日庁舎市民福祉課長 成沢真紀、温海庁舎市民福祉課長 武田綾子
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者の人数 2名

1. 開 会

2. 挨拶 (健康福祉部長)

3. 協議事項(議長:会長)

- (1) 第8期介護保険事業計画の施策体系(案)について
(説明:資料1 加藤 長寿介護課長補佐)

- 委 員 質問・意見等なし

- (2) 地域支援事業の見直し(案)について
(説明:資料2 石井 長寿介護課主査)

- 委 員 通所型サービスBについては、鶴岡市ではあまり広がっていないと思うが、(補助金の)基準をクリアするのが大変難しく、また、集落が点在するような地域では

送迎を考えないと中々広がらないのではないかと思う。朝日地域は、かたくり温泉ぼんぼを利用して実施しているが、地元の社会福祉法人がデイサービスの車を無償で提供し送迎している実情がある。移送の問題を解決できるようにお願いしたい。

- **事務局** 移送の問題等について、また、通所型サービスBのあり方については、今後、地域づくりの関係各課も含めて検討していく。

(3) 第8期介護保険事業計画等の給付見込みと保険料(案)について

(説明：**資料3** 工藤 長寿介護課主事)

- **委員** 今日お集まりの事業所の委員の方に伺いたい。今回のコロナ禍によって、色々な費用が増えていると思うが、その増えた状況に対し交付金などあるのか、どのようになっているか伺いたい。
- **委員(回答)** 法人全体として、コロナ禍における補助金があり、それを活用し備品購入などしている。デイサービスに関しては「利用控え」があり、収入減になっている。
- **委員(回答)** 正確な数字は申し上げられないが、コロナの関係による「かかり増し費用」という、マスクや消毒などで通常よりもかかっている費用や看護師の増員などについて、国の補助が認められており申請している。補助が入るとしても、費用がかかり増ししている状況である。
- **委員(回答)** 特別養護老人ホームの長期入居者定員一人につき38,000円、短期入所の利用者定員一人につき44,000円が、国の「かかり増し費用」の補助金となっており、これを活用し消毒等各種備品の購入等に充てている。
- **委員(回答)** デイサービスとショートステイの関係では、利用控えがあるということで、デイサービス利用時間を換算する際、実際は4時間の利用でも2単位上乗せの6時間分利用したものとして請求できるといったような、利用控えに対する措置もあるため割り増しをいただいている。
- **委員** 利用者にかぶさってくる状況だと大変だと思うし、今回こういう状況になったのは誰のせいでもないと思うので、公的費用をもっといただけるよう、それなりの手立てをしていただきたいと思います。
- **議長** 利用者の利用控えという意味で収入の減収はあるが、コロナ感染対策にかかる費用に関しては、国からの補助金や現物支給などもある。一番は、利用者の減が経営には影響しているのではないか。他には意見・質問などないか。
- **委員** 一つは、当事者組織の関係を伺いたい。老人クラブ・婦人会などあるが、現在、鶴岡市の旧市の中では役員のみ手が無いなどの理由で無くなってきている。当事者組織が無くなっていくと、その意見を集約してということができなくなってくるので、どんな形で助成・援助を行っているのか、ということがあると思う。何が理由で老人クラブや婦人会が無くなってきているのかという理由と、それをどうすればそうならないようにできるのかを、ぜひ考えていただきたい。
もう一つは、総合事業のサービスB型については、私も関わることにして(担い手養成)研修会も受けたが、研修会の中にボランティア活動についての研修もあった。確かにB型はボランティア的な部分は多いと思うが、自助・互助・公助から言えば互助になる訳だが、ボランティア活動についての考え方がはっきりしていなかったのではないかと

感じた。高齢者の居場所の関係で、当然それにはボランティアが関わってくる訳だが、介護予防の関係を含めると居場所の確保はこれからも大切になってくると思うが、考え方があれば教えていただきたい。前回（7期計画策定の懇話会）の時は、居場所ということで社会福祉協議会の資料などもあったと思うが、現在、どんな形で把握をしているかということも教えていただきたい。

- **事務局** 老人クラブについては、今日は会長さんも出席されているが、残念ながらクラブ数・会員数ともに減ってきている現状にある。その原因については、リーダーのなり手がいないという課題がひとつあると思う。それと、前回のこの会議でニーズ調査の結果をお示ししたところだが、高齢者の意識の変化というか、クラブ活動などについて、特に高齢者の中でも若い世代の方々の意識の変化というものも大きな要因となっているのではないかと思う。市としては、引き続き老人クラブに対しては補助していきたいと思うし、老人クラブの方で自主的に魅力あるクラブにするための研修等も行っていると思うので、それらに期待しながら必要な支援をして参りたい。
- **事務局** 続いて、高齢者の居場所の関係については、長寿介護課だけでなく、社会福祉協議会、地域包括ケア推進室や関係各団体等と一緒に、住民主体の介護予防の通いの場づくりを進めている。長寿介護課では「いきいき100歳体操」をツールとした通いの場づくりに取り組んでいるが、それ以外にも社会福祉協議会のサロン活動等、様々なところを居場所として、高齢者の皆様が自分らしく過ごせる場所を、体操にとらわれずに住民主体で広げていきたいと考えている。
- **委員** 一つは、当事者組織の関係を伺いたい。老人クラブ・婦人会などあるが、現在、会計を含めて事務を扱う人がなかなか居ないということがある。自助努力も必要とは思いますが、例えば、プロボノとまではいかないとしても、老人クラブに入って事務を担う人が市役所のOB、というような人が出てくればいいのではないかと考えている。婦人会も無くなってきているが、それもやはり役員になり手がいないが、これはまた老人クラブとは別で、会長や役員になり手がいないと言われているが、これも、市役所のOBの皆さん方から立候補していただき、ぜひ引っ張って行っていただければと思っている。
あと、居場所の関係だが、鶴岡は居場所がたくさんある方だと思っている。ただ、ボランティアに対する考え方をぜひ勉強していただきたいと思う。これは、市役所の職員の皆さん方からもボランティア活動をしていただきたいという事も含めて、やらないと多分本当の意味のボランティア活動はわからないと思うので、ぜひお願いしておきたい。
- **委員** 老人クラブ鶴岡支部は、来年60周年を迎える。発足当時から、クラブ数は半分、会員数も半分という状況である。特に市街地が育たないのは何故かという、もちろん先に立って、一人がみんなのために、という意識が減ってきて、上げ膳据え膳の所には行く、という意識の変化が原因であると感じている。老人クラブはみんな勉強しながら、社会奉仕をして行こうという、そういう大きな志を持って活動をしているので、それに馴染まない方がだんだん増えてきたのかな、という感じもしている。それから市街地は集まる場所が無い。コミュニティはあるが、町内ごとに公民館類似施設があると集まりやすい。わざわざコミセンまで行って集まるのは大変だ、とやめていく方もいる。市街地は空き家が増えていると思うので、そこに行政がテコを入れ、集会施設のような類似施設としたらいいなと思っている。あの手この手で活動をしているが、今、コロナで活動も沈みがちであっても感染対策を十分しながら頑張らないと。山形県では鶴岡市

は一番活動をしている。市役所を退職した方などを老人クラブにとのことだが、今は65歳まで年金がもらえないので、70歳位まではみんな働いている。ですから、80歳以上が老人クラブの主流になってきている。ということで、皆さんからのご支援をいただきながら頑張っている。町内会長会などに出向き、何回かお願いしたことはあるが、側面的なご尽力などはいただけず、私の力不足である。頑張っていますので、何とか皆さんのご支援をいただければと思う。

- **議長** 地域包括ケアと言われて、地域で元気な人たちが地域の中でお互いに助け合おうという、今、国がそういう施策を出している。そこから考えると、遠くの親戚より近くの他人というか、昔ながらの日本のいいところ、今老人クラブの話もあったが、町内会、民生委員などに、定年退職された60歳を過ぎたくらいの方々が、地域でそれなりのポジションで少し頑張っていたが、地域の皆さんで支えるということが大事になってくると思う。居場所の話もあったが、地域包括支援センターでも地域に出向いて居場所づくりに努力いただいている。コーディネーターの方もいるので、活用していただければと思うが、これは老人クラブの問題だけではなく、今の日本は個人主義になってきており、昔の良い意味での地域で、という意味が変わってきていると思う。すぐに結論が出る問題ではないと思うが、何とかやっけて行かなければならない。
- **委員** これからの介護保険料ということで、行政の方でも下げる努力をしていただき、介護保険料の基準額を抑えて、という話はよくわかるが、ここに従事している介護スタッフの皆さん、何年か前に介護職になる人がいないという事で、国で助成金という事が出ている。今、介護職の給料というのはどうなのか。一般的に給料は毎年上がっているのか。それとも各施設によって介護職員が、ここを辞めてあっちに行った、というような移動が激しいのか。介護職員の給料は各施設で上がっているのか、上がっていないのか、わかる範囲で聞きたい。
- **事務局** 確かに、何年も前から人材不足、特に介護員の確保は困難だということで、国としては介護職の処遇を改善しようと加算制度を設けている。昨年度は、消費税増に伴い、さらに特定の処遇改善加算という、介護福祉士経験年数10年以上等で加算を手当として支給する制度が始まった。この特定処遇改善加算については始まったばかりであり、徐々に各事業所さんで判断してその仕組みを取り入れるかどうかという事になる。それらも含め、最終的には手当に反映していただけるものと思っている。
- **委員** 個人経営というか、家族経営のデイサービスのような所に勤めている方からの相談が労働組合にも多くなっており、その手当を出さない事業所があるということで、もう少し突っ込んだ話を聞こうと思ったら、もう辞めたからいいですと、それ以上聞くことができなかった。各事業所さん、大変でしょうけれども、そういう個人経営、家族経営でやっているような小さい事業所では、手当関係を出さない事業所があるということ行政の方でもわかっていて欲しいと思う。

(4) その他

- **事務局** 前回、第1回懇話会後にいただいたご質問に対して回答する。介護人材確保として、前年度の2月21日に開催した福祉のしごと面談会の際、参加した鶴岡市内の法人15法人に対し、面接が69名、うち1人が採用という結果が示されたが、マッチン

グ率が低いのは何故か、主催である山形県社会福祉協議会に確認した。いくつか要因はあるが、周知不足がひとつ。市の広報への掲載が2月号で2月実施という、少し遅れたことがある。また、県内では庄内地域が一番最後の開催となり、他の地域はもっと早かったが、時期が遅く参加者が少なかったことも考えられる。時期的にはコロナも若干の影響があったのではないかと思う。マッチング率は、開催日以降の後追いがされていなかった。その後、採用された方があったのかどうか、確認が取れていない。コロナでなければ、これをきっかけにして、直接事業所で連絡を取って雇用につなげたいという意図もあったが、コロナの影響もあり、そこがうまくいかなかったと思われる。実は今年度も、12月8日に開催する予定であったが、コロナの影響で中止になったというように、なかなか思うように行かなかったことがある。

4. その他

- **事務局** 第3回懇話会の開催は令和3年1月26日(火)13時30分開催予定である。
- **委員** 資料の送付について、もう少し早くならないか。資料1が届いたのが先週の金曜日であった。資料2・3は当日配布ということだったが、事前に目を通すためにも、もう少し早く送ってほしい。
- **事務局** 1週間前を目途にとは考えている。少しでも早くお届けできるようにしたい。

5. 閉 会 (午後2時45分)